

いわて県民計画 (2019～2028)

第1期アクションプラン — 政策推進プラン — (抜粋)

2019年度～2022年度

平成31年3月
岩手県

はじめに

1 政策推進プランの策定趣旨

「いわて県民計画（2019～2028）」長期ビジョン第5章では、県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会を実現していくため、「岩手の幸福に関する指標」研究会から示された「主観的幸福感に関する12の領域」をもとに、「健康・余暇」、「家族・子育て」、「教育」、「居住環境・コミュニティ」、「安全」、「仕事・収入」、「歴史・文化」、「自然環境」と、これらの分野を下支えする共通の土台としての「社会基盤」、「参画」を加えた10の政策分野を設定しています。

政策推進プランは、これらの政策分野に基づく取組を推進するため、重点的・優先的に取り組むべき政策や、その具体的な推進方策を明らかにし、長期ビジョンの実効性を確保するものです。

2 政策推進プランの計画期間

「いわて県民計画（2019～2028）」長期ビジョン第5章の第1期アクションプランとして策定するもので、マニフェスト・サイクルを考慮した2019年度から2022年度までの4年間の計画とします。

3 政策推進プランの構成

10の政策分野ごとの取組を進めるに当たっては、県はもとより、県民、企業、NPO、市町村など、地域社会を構成するあらゆる主体が、それぞれ主体性を持って行動していくことが必要です。

このため、政策推進プランでは、各政策分野における幸福に関連する客観的な指標（いわて幸福関連指標）のほか、50の政策項目ごとに、取組の「基本方向」、「県が取り組む具体的な推進方策」、「県以外の主体に期待される行動」を示しています。

4 政策推進プランの推進

(1) 多様な主体が参画した取組の推進

平成21年（2009年）に策定した「いわて県民計画」では、県民、企業、NPO、市町村や県など、地域社会を構成するあらゆる主体の総力を結集し、地域の歴史的・文化的・経済的・人的資源を最大限に活用しながら、地域の個性や特色を生かすことにより、地域の価値を高めていく取組を進めてきました。

こうした取組を進める過程では、県政への参画の機会が比較的少なかった若者や女性などの参画が促進され、多くの県民や多様な主体が社会の中でつながり、支え合う社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を重視する視点が定着してきています。

また、東日本大震災津波からの復旧・復興においても、県民をはじめ、企業、NPO、関係団体、高等教育機関など、県内外の多様な主体の参画や交流・連携による「開かれた復興」を推進してきています。

この計画の推進に当たっても、県は、近年、拡大している県の役割を確実に果たすとともに、多様な主体が参画した地域づくりを更に進め、県政課題に取り組んでいくことが重要と考えています。

このため、県においては、ネットワーク化の支援や協働の場づくりなど、県と多様な主体との

協働を広げていく取組や、民間や地域の力を引き出す取組を一層推進していきます。

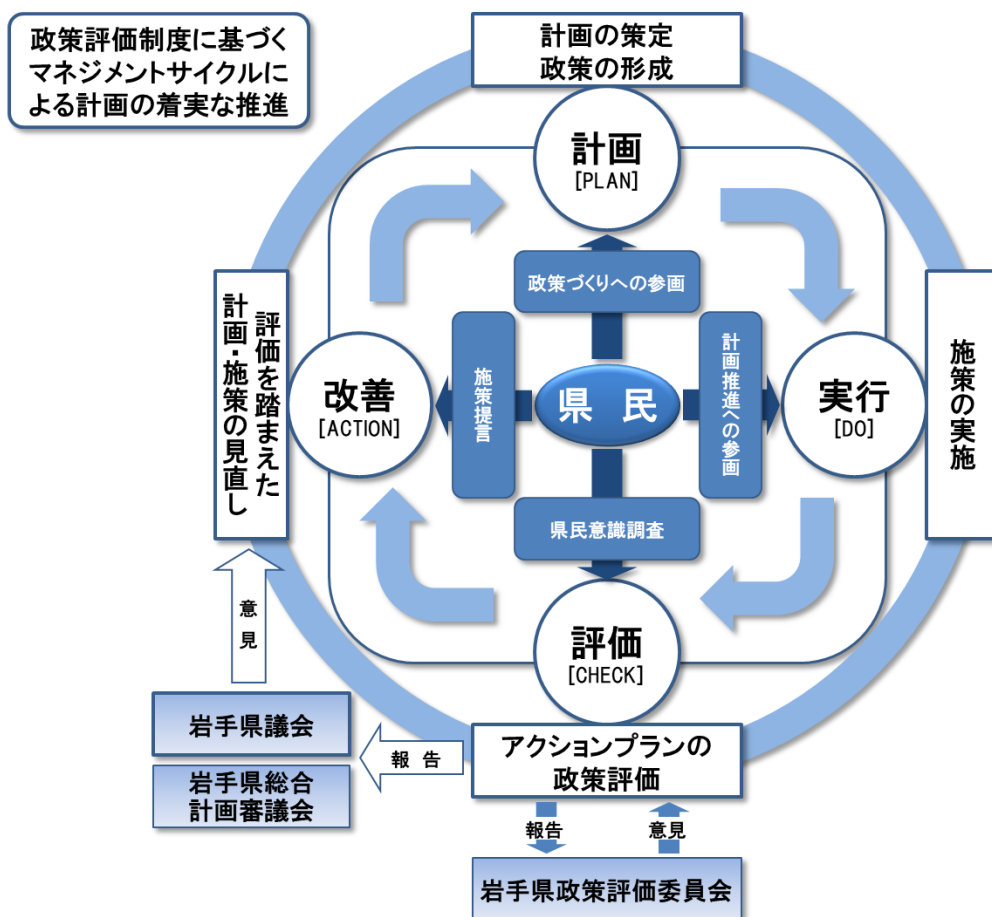
(2) 政策推進プランの評価と弾力的な見直し

厳しい財政状況の中で、財源の確保に努めるとともに、計画の実効性を高めていくためには、立案した計画に基づき、施策を着実に実施し、その評価を通じて、次に実施する施策を見直していくことが重要です。

このため、政策推進プランの進捗管理に当たっては、政策評価の仕組みに基づくマネジメントサイクルを確実に機能させ、取組の成果の評価結果を県民と共有し、計画の実行性を高め、取組を着実に推進していきます。

政策評価の結果については、外部の有識者で構成する岩手県政策評価委員会の意見を伺うとともに、岩手県議会や岩手県総合計画審議会に報告し、政策評価等を踏まえた課題やその解決方向などについて、幅広く意見を伺います。

また、社会経済情勢の変化などを踏まえ、必要に応じて、内容を見直すなど、弾力的に対応していきます。



<10の政策分野の基本的考え方>

I 健康・余暇

～健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、

また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手～

生涯を通じた心身の健康づくりを進め、地域の保健医療提供体制の充実や福祉コミュニティづくりなどにより、子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も、こころと体の健康を実感でき、また、文化芸術活動やスポーツ活動、学びの機会を充実することにより、余暇の充実を実感できる岩手の実現に向けた取組を展開します。

II 家族・子育て

～家族の形に応じたつながりや支え合いが生まれ、

また、安心して子育てをすることができる岩手～

従来の形に捉われない様々な家族の形態において、それぞれが大切な人とのつながりや支え合いを確保できる環境づくりを進めることにより、共につながり、支え合う良好な家族関係を実感でき、また、結婚や出産、子育てなどの環境づくりを進めることにより、家庭や地域で、子どものいきいきとした成長が実感できる岩手の実現に向けた取組を展開します。

III 教育

～学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、自分の夢を実現できる岩手～

学校教育の充実や国際交流、文化・スポーツ、産業などの様々な分野での人づくりを進めることにより、将来を担う子どもたちの心豊かな学びや生きる力の高まりを実感でき、国内外や地域社会の様々な分野で活躍する人材が育っていると実感できる岩手の実現に向けた取組を展開します。

IV 居住環境・コミュニティ

～不便を感じないで日常生活を送ることができ、

また、人や地域の結び付きの中で、助け合って暮らすことができる岩手～

居住環境の整備や日常生活に必要な交通手段の確保などにより、住まいの快適さや暮らしやすさを実感でき、また、多様な主体の連携や異なる文化、県内外の人的・経済的な交流などにより、暮らし続けたい、帰りたいと思える地域のつながりを実感できる岩手の実現に向けた取組を展開します。

V 安全

～災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、事故や犯罪が少なく、

安全で、安心を実感することができる岩手～

災害に対する十分な備えや、犯罪、交通事故が起りにくい環境づくりに取り組むとともに、食の安全の確保や感染症の予防対策などを進めることにより、地域の安全や暮らしの安心を実感できる岩手の実現に向けた取組を展開します。

VI 仕事・収入

～農林水産業やものづくり産業などの活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、
また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手～

岩手県の地域経済を支える中小企業、地域経済をけん引する自動車や半導体関連産業をはじめとするものづくり産業、地域の特性や資源を活用した産業、幅広い分野に波及効果をもたらす観光産業、岩手県の基幹産業である農林水産業などの産業政策を総合的に展開し、一人ひとりの能力を発揮できる多様な雇用の確保を進めることにより、希望する仕事に就き、安心して働きながら、仕事のやりがいを実感でき、また、経済基盤の高度化や生産性の向上を図ることにより、必要な収入や所得が得られていると実感できる岩手の実現に向けた取組を展開します。

VII 歴史・文化

～豊かな歴史や文化を受け継ぎ、愛着や誇りを育んでいる岩手～

世界遺産の保存と活用を進め、また、過去や現在から未来に引き継ぎたい地域の歴史や伝統文化を学び、受け継ぐことにより、岩手や地域への誇りや愛着を実感できる岩手の実現に向けた取組を展開します。

VIII 自然環境

～一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手～

良好な自然環境の保全や循環型地域社会の形成、再生可能エネルギーの導入をはじめとする地球温暖化対策などを進めることにより、自然に恵まれていることを実感できる岩手の実現に向けた取組を展開します。

IX 社会基盤

～防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手～

社会経済活動や教育・研究の土台となる情報通信技術の活用、科学の振興、産業や暮らしを支える社会資本の整備など、8つの政策分野を支える基盤の強化により、地域の魅力を実感できる岩手の実現に向けた取組を展開します。

X 参画

～男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、

幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手～

男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などが活躍できる仕組みづくり、NPOや関係団体等の多様な主体による幅広い市民活動や県民運動の促進など、8つの政策分野を支えるソフトパワーの強化により、地域の魅力を実感できる岩手の実現に向けた取組を展開します。

また、これらの取組の展開に当たっては、岩手県の魅力の国内外への情報発信や市町村との連携の推進などの視点も重要です。



4 幅広い分野の文化芸術に親しみ、生涯を通じてスポーツを楽しむ機会を広げます

(基本方向)

県民が心身ともに健康的に暮らせるよう、身近な地域でスポーツ活動ができる総合型地域スポーツクラブ¹の活性化などを通じて、若年期から高齢期までのライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実を図ります。

また、障がい者スポーツの一層の推進を図るため、障がいのある人もない人も共に楽しむスポーツ大会や教室の開催などを通じて、障がい者のスポーツへの参加機会の充実や障がい者スポーツの理解促進に取り組みます。

さらに、年齢や身体能力、障がいの有無等に関わらず、県民一人ひとりがスポーツに取り組む新しい地域社会を創造するため、岩手発の「超人スポーツ²」の創出等により、スポーツへの参加機会を広げます。

現状と課題

- ・ 本県では、ラグビーワールドカップ2019TM釜石開催や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を間近に控え、スポーツへの関心が高まっている一方、年齢別に見て、働く世代のスポーツ実施率が低い傾向にあります。
- ・ 総合型地域スポーツクラブが県内25市町村に58クラブ設置（平成31年4月現在では26市町村59クラブ）され、地域で様々なスポーツ活動が実施されているとともに、県内に約700人いるスポーツ推進委員³が、住民のスポーツ活動をサポートしています。
- ・ 障がい者スポーツを支える組織が、県域と市町村にそれぞれ1組織設置され、スポーツ教室や大会開催などの取組が進められています。
- ・ 最先端のテクノロジーを用いて競い合う「超人スポーツ」をはじめ、従来のスポーツの枠を超えた様々な競技が展開されています。

¹ 総合型地域スポーツクラブ：人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子どもから高齢者まで、様々なスポーツを愛好する人々が、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できるという特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。

² 超人スポーツ：人間の身体能力を補い拡張する人間拡張工学に基づき、人の身体能力を超える力を身に付け「人を超える」、あるいは、年齢や障がいなどの身体差により生じる「人と人のバリアを超える」、テクノロジーを自在に乗り越え、競い合う「人機一体」の新たなスポーツ。

³ スポーツ推進委員：市町村におけるスポーツの推進のため、事業実施に係る連絡調整、住民に対するスポーツの実技指導及びその他スポーツに関する指導・助言を行う者。

県が取り組む具体的な推進方策（工程表）

① ライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実

- ・ 総合型地域スポーツクラブの活性化のため、クラブの創設・育成等を担う広域スポーツセンター⁴と連携し、運営の指導・助言等に取り組みます。
- ・ 地域のスポーツ活動を担うスポーツ推進委員の資質向上を図るため、市町村等と連携し、研修・研究大会の実施などに取り組みます。
- ・ スポーツ・レクリエーションの普及のため、県スポーツ振興事業団等と連携し、各種教室、指導者育成等に取り組みます。
- ・ 子どもから高齢者まで幅広い年代の運動習慣の定着や生活習慣病・介護予防等につながる健康づくりと体力向上のため、スポーツ医・科学の知見に基づく運動プログラムを提供します。
- ・ あらゆる年代でスポーツへの参加機運の醸成を図るため、学校、地域、家庭等と連携し、運動習慣の定着化に向けた取組を幅広く展開します。
- ・ 県民がスポーツを楽しむ場を提供するため、県内のスポーツ施設の現状や県と市町村との役割分担、県民のニーズなどを踏まえ、県営スポーツ施設の適切な維持管理や修繕、更新等を実施します。
- ・ スポーツ医・科学の知見を生かした健康づくりや競技力向上等を図るため、（公財）岩手県体育協会、スポーツ関係団体、企業、大学等と連携した「いわてスポーツ推進プラットフォーム」を構築し、活動拠点の整備に向けた検討を行います。

② 障がい者スポーツへの参加機会の充実

- ・ 障がい者が身近な地域で自らの興味・関心、適性等に応じてスポーツを楽しむことができるよう、関係団体と連携し、障がい者対象のスポーツ大会やスポーツ教室の実施などに取り組みます。
- ・ 障がい者スポーツの理解促進のため、障がいのある人もない人も共に楽しむスポーツ教室の実施などに取り組みます。
- ・ 障がい者スポーツの一層の推進を図るため、関係機関と連携し、障がい者スポーツの推進組織の体制強化や設立に向けた支援に取り組みます。

③ 岩手発の「超人スポーツ」の創出等によるスポーツ参加機会の拡大

- ・ スポーツの概念及び捉え方の拡張を図り、スポーツをより身近なものとするため、関係団体、企業、大学等と幅広く連携し、若者を中心としたワークショップの開催などにより、自由な発想による岩手発の「超人スポーツ」の創出に取り組みます。
- ・ 年齢や身体能力、障がいの有無等に関わらず、県民一人ひとりがスポーツに取り組めるよう、スポーツをめぐる新しい動向などを踏まえながら、「超人スポーツ」の普及などに取り組むとともに、「eスポーツ」などの可能性を研究していきます。

⁴ 広域スポーツセンター：各都道府県において広域市町村圏内の総合型スポーツクラブの創設や運営、活動とともに、圏内におけるスポーツ活動全般について、効率的な支援を行う役割を担うもの。

県が取り組む具体的な推進方策	工程表（4年間を中心とした取組）																												
	～2018	2019	2020	2021	2022																								
① ライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実 目標 ・総合型地域スポーツクラブ会員数（地区全戸加入を除く）（人） <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11,628</td> <td>11,840</td> <td>12,060</td> <td>12,280</td> <td>12,500</td> </tr> </tbody> </table> 現状値は2018年の値 ・県営スポーツ施設の利用者数（万人） <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>112</td> <td>114</td> <td>116</td> <td>118</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table> 現状値は2017年の値	現状値	2019	2020	2021	2022	11,628	11,840	12,060	12,280	12,500	現状値	2019	2020	2021	2022	112	114	116	118	120	総合型地域スポーツクラブの創設、育成支援 総合型クラブ、その他地域のスポーツ活動の充実、支援 →	スポーツ推進委員等の研修、研究大会の実施 →	スポーツ医・科学の知見に基づく運動プログラムの提供 →	スポーツ・レクリエーションの教室開催、指導者育成 →	スポーツへの参加機運の醸成を図る県民運動の検討 →	県民運動の展開、定着、拡大 →	県営スポーツ施設の個別施設計画の策定 →	県営スポーツ施設の維持管理や修繕、更新等 →	スポーツ推進プラットフォームの構築 組織検討 → 設置・運営 活動拠点の整備に向けた検討 →
現状値	2019	2020	2021	2022																									
11,628	11,840	12,060	12,280	12,500																									
現状値	2019	2020	2021	2022																									
112	114	116	118	120																									
② 障がい者スポーツへの参加機会の充実 目標 ・障がい者スポーツの教室・大会の参加人数（人）〔累計〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,954</td> <td>3,070</td> <td>6,200</td> <td>9,390</td> <td>12,640</td> </tr> </tbody> </table> 現状値は2017年単年の実績値、目標値は2019年からの累計 ・障がい者の受入・活動支援を行うスポーツ関係団体数（団体）〔累計〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table> 現状値は2018年単年の実績値、目標値は2019年からの累計	現状値	2019	2020	2021	2022	2,954	3,070	6,200	9,390	12,640	現状値	2019	2020	2021	2022	8	11	14	17	20	スポーツ教室、県障がい者スポーツ大会等の実施 →	障がいのある人もない人も共に楽しむスポーツ教室等の実施 →	総合型クラブにおける障がい者の受入態勢整備モデル展開 →	総合型クラブにおける障がい者の受入、活動支援の全県拡大 →	障がい者スポーツ推進組織の体制強化、設立に向けた取組の支援 →				
現状値	2019	2020	2021	2022																									
2,954	3,070	6,200	9,390	12,640																									
現状値	2019	2020	2021	2022																									
8	11	14	17	20																									
③ 岩手発の「超人スポーツ」の創出等によるスポーツ参加機会の拡大 目標 ・超人スポーツワークショップ参加者数（人）〔累計〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>69</td> <td>70</td> <td>140</td> <td>210</td> <td>280</td> </tr> </tbody> </table> 現状値は2017年単年の実績値、目標値は2019年からの累計 ・超人スポーツオープンセミナー参加者数（人）〔累計〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40</td> <td>50</td> <td>110</td> <td>180</td> <td>260</td> </tr> </tbody> </table> 現状値は2018年単年の実績値、目標値は2019年からの累計	現状値	2019	2020	2021	2022	69	70	140	210	280	現状値	2019	2020	2021	2022	40	50	110	180	260	超人スポーツワークショップの開催 →					超人スポーツの普及啓発（セミナー等）・国内外への情報発信 →			
現状値	2019	2020	2021	2022																									
69	70	140	210	280																									
現状値	2019	2020	2021	2022																									
40	50	110	180	260																									

Ⅲ 教育

13 【体育】児童生徒の健やかな体を育みます

（基本方向）

児童生徒一人ひとりが自らの体力や健康に関心を持ち、運動に親しむ資質や能力を身に付けることができるよう、学校体育の充実や適切な部活動の推進などにより、体力の向上と健康の保持・増進に取り組みます。

また、生涯を通じて健康で活力ある生活を送ることができるよう、家庭や地域と連携しながら、健全な食生活と健康・命の大切さを教える学校保健活動などにより、児童生徒に基本的な生活習慣や、健康に関する正しい知識などを身に付けさせる取組を推進します。

現状と課題

- 希望郷いわて国体・希望郷いわて大会が開催され、ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を間近に控えるなど、運動やスポーツに対する県民の意識が高まっています。
- 児童生徒の一週間の総運動時間や体力合計点、運動やスポーツが好きな児童生徒の割合は全国平均を上回っている一方で、肥満傾向の児童生徒の割合が全国平均を上回っています。
また、運動に積極的に取り組む子どもと、そうでない子どもとの二極化傾向が見られます。
- 部活動は、生徒の多様な学びの場としての重要な意義を持つ一方で、長時間練習や教職員の多忙化などの弊害も指摘されており、適切な部活動を推進していくとともに、地域での受け皿となる総合型地域スポーツクラブ¹等との連携を図っていく必要があります。
また、大会等で勝つことのみを重視し過重な練習を強いたり、部活動への参加を義務付けたりすることがないように留意するとともに、体罰や生徒の人格を傷付ける言動等の根絶に向けた取組を徹底する必要があります。
- 生活習慣が多様化する中で、偏った食事や不規則な食事などの食習慣の乱れや、スマートフォン等の過度な利用による睡眠時間の不足などが心身に影響を及ぼしており、生涯の健康を支える力の育成が必要です。
- 生活習慣病や薬物乱用などの健康に関する問題を防止するため、児童生徒が健康についての正しい知識に基づき自ら考え判断できる力を身に付ける必要があります。

¹ 総合型地域スポーツクラブ：人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子どもから高齢者まで、様々なスポーツを愛好する人々が、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できるという特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。

県が取り組む具体的な推進方策（工程表）

① 豊かなスポーツライフに向けた学校体育の充実

- ・ 幼児児童生徒に運動やスポーツに親しむ習慣を身に付けさせるため、体育授業の改善、休み時間における運動遊びの奨励等の取組、家庭・地域との連携による取組により、1日60分以上、運動やスポーツに親しむ取組である「希望郷いわて元気・体力アップ60運動」を推進します。
- ・ 児童生徒の体力・運動能力の向上を図るため、体力・運動能力調査結果を踏まえた地域ごとの取組の推進や学校の指導者研修会を実施します。
- ・ 児童生徒が体力や技能の程度、年齢や性別及び障がいの有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう、体育・保健体育授業の改善に向けた指導者研修等の実施などにより、指導の充実を図ります。
- ・ 児童生徒がスポーツの意義や価値を学び、スポーツへの興味・関心を高めるため、オリンピック・パラリンピアンを各学校へ派遣するなど、オリンピック・パラリンピック教育を進めます。

② 適切な部活動体制の推進

- ・ 生徒が生涯にわたりスポーツ・文化芸術に親しむことができるよう、生徒の自主的・自発的な参加により行われる部活動の推進を図るとともに、「岩手県における部活動の在り方に関する方針」に基づき、部活動休養日の設定や生徒のニーズを踏まえた適切な部活動の指導体制の推進に取り組めます。
- ・ 大会で勝つことのみを重視し過重な練習を強いることがないよう、スポーツ医・科学の観点から踏まえた指導及び体罰や生徒の人格を傷付ける言動等の根絶に向けた指導者研修の充実に取り組むとともに、部活動の質的向上や教員の負担軽減を図るため、部活動指導員を配置します。
- ・ 体罰等の根絶を含めた部活動の方針等の共通理解を図るため、教職員や保護者、外部指導者等による部活動連絡会の開催を各学校に働きかけるとともに、体育協会、総合型地域スポーツクラブ等との連携推進会議を開催します。
- ・ 高校生の部活動指導体制の充実を図るため、体育協会や種目別協会等との連携を図りながら、スポーツ特別強化指定校²に対し、優秀指導者を長期的に配置します。

③ 健康教育の充実

- ・ 児童生徒の肥満予防・改善を図るため、学校と家庭・地域が連携し、教育活動全体を通じて食への理解促進や、家庭への望ましい食習慣と適度な運動習慣づくりに関する啓発など、児童生徒の実態に応じた指導等に取り組めます。
- ・ スマートフォン等の過度な利用による心身への影響等を踏まえ、幼児児童生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせるため、家庭、地域、関係機関と連携しながら、適切なスマートフォン等の利用に関する普及啓発に取り組めます。
- ・ 生涯にわたって健康的な生活を送るために必要な力の育成に向け、生活習慣病やゲートウェイドラッグ³と言われる喫煙・飲酒を含めた薬物乱用等、健康に関する問題を防止するための講習会等、健康の保持増進への理解を深める取組を実施します。

² スポーツ特別強化指定校：本県の競技スポーツにおける高校生の選手強化、競技力向上を図るために指定された公立高校。

³ ゲートウェイドラッグ：比較的入手しやすい薬物Aを使用したことがきっかけで、より作用の強い薬物Bの使用につながってしまった場合、薬物Aを薬物Bのゲートウェイドラッグという。喫煙・飲酒は、麻薬へのゲートウェイドラッグになることが危惧されている。

- メンタルヘルスやアレルギー疾患等、多様化・深刻化する子どもの健康課題に対応するため、学校、家庭、関係機関が連携した学校保健委員会での情報共有の一層の充実や、養護教諭をはじめとした教職員の資質・能力向上を図るための研修などに取り組みます。
- 児童生徒が性的平等の意識や望まない妊娠の防止、性感染症の予防等について正しい知識を身に付けるとともに、自他共に尊重できる心を育成し行動できるよう、関係機関と連携した効果的な指導体制を構築します。
- 食育推進の中核的な役割を担う栄養教諭をはじめ教職員が、児童生徒の食に関する自己管理能力育成に向けた指導力の向上を図るため、各学校の優良実践を共有するなど、研修内容の充実に取り組みます。

県が取り組む具体的な推進方策	工程表（４年間を中心とした取組）																			
	～2018	2019	2020	2021	2022															
① 豊かなスポーツライフに向けた学校体育の充実 目標 ・運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合（％） <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>現状値</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89</td> <td>89</td> <td>89</td> <td>89</td> <td>89</td> </tr> </tbody> </table> 現状値は2018年の値	現状値	2019	2020	2021	2022	89	89	89	89	89	<div style="text-align: center;">元気・体力アップ 60 運動の推進</div> <div style="text-align: center;">学校の実態に応じた体力向上における取組改善の支援</div> <div style="text-align: center;">モデル園の運動遊びの改善における実践研究の実施</div> <div style="text-align: right;">拡大普及</div> <div style="text-align: center;">モデル校の体育・保健体育授業改善における実践研究の実施</div> <div style="text-align: right;">拡大普及</div> <div style="text-align: center;">オリンピック等との交流によるオリパラ教育の推進</div> <div style="text-align: center;">オリパラのレガシーを活用した教育の推進</div>									
現状値	2019	2020	2021	2022																
89	89	89	89	89																
② 適切な部活動体制の推進 目標 ・部活動の活動方針について、学校、保護者、外部指導者等が、共通理解を図る部活動連絡会を開催している学校の割合（％） <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>現状値</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中80.2</td> <td>85</td> <td>90</td> <td>95</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>高 —</td> <td>70</td> <td>80</td> <td>90</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> 現状値は2017年の値	現状値	2019	2020	2021	2022	中80.2	85	90	95	100	高 —	70	80	90	100	<div style="text-align: center;">「部活動の在り方に関する方針」を踏まえた活動の徹底</div> <div style="text-align: center;">部活動方針の理解・浸透</div> <div style="text-align: center;">方針の見直し</div> <div style="text-align: center;">新方針の理解・浸透</div> <div style="text-align: center;">生徒数の減少等による課題把握</div> <div style="text-align: center;">課題を踏まえた方向性の検討</div> <div style="text-align: center;">関係団体との連携等による課題解決に向けた取組の実施</div> <div style="text-align: center;">スポーツ特別強化指定校による高校生の部活動指導体制の充実</div>				
現状値	2019	2020	2021	2022																
中80.2	85	90	95	100																
高 —	70	80	90	100																

県が取り組む具体的な推進方策	工程表（４年間を中心とした取組）																								
	～2018	2019	2020	2021	2022																				
③ 健康教育の充実 目標 ・「定期健康診断」の肥満度が正常である児童生徒の割合（％）	肥満要因の調査分析	個別指導のモデル実践	分析結果を基にした指導方法による個別指導の普及・実践																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小88.1</td> <td>89</td> <td>89</td> <td>90</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>中86.2</td> <td>87</td> <td>87</td> <td>88</td> <td>89</td> </tr> </tbody> </table> 現状値は2018年の値	現状値	2019	2020	2021	2022	小88.1	89	89	90	91	中86.2	87	87	88	89	家庭、地域、関係機関と連携した普及啓発（基本的な生活習慣の定着）									
現状値	2019	2020	2021	2022																					
小88.1	89	89	90	91																					
中86.2	87	87	88	89																					
・ルールを守って情報機器（スマートフォン等）を利用することが大切だと思う児童生徒の割合（％）【再掲】	薬物乱用等の講演会、教室の開催																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小89</td> <td>91</td> <td>94</td> <td>97</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>中85</td> <td>89</td> <td>93</td> <td>96</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>高83</td> <td>87</td> <td>91</td> <td>96</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> 現状値は2018年の値	現状値	2019	2020	2021	2022	小89	91	94	97	100	中85	89	93	96	100	高83	87	91	96	100	調査・分析・指導資料の作成・活用（がん教育、薬物乱用防止教育）				
現状値	2019	2020	2021	2022																					
小89	91	94	97	100																					
中85	89	93	96	100																					
高83	87	91	96	100																					
・喫煙飲酒の指導を含めた「薬物乱用防止教室」を開催している小学校の割合（％）	研修の実施 養護教諭・栄養教諭育成指標に基づく教員研修の充実 学校保健研修会等の充実 食育推進研修会等の充実																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>73.7</td> <td>85.0</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> 現状値は2017年の値	現状値	2019	2020	2021	2022	73.7	85.0	100	100	100	性に関する指導の先進事例等調査・研究・分析	指導資料改訂	指導資料等を活用した啓発												
現状値	2019	2020	2021	2022																					
73.7	85.0	100	100	100																					
	食育の推進																								

Ⅲ 教育

19 文化芸術・スポーツを担う人材を育てます

(基本方向)

スポーツを担う人材を育てるため、アスリート、障がい者アスリートの各種競技大会や強化合宿への参加を支援するとともに、スポーツ活動を支える指導者等の養成、スポーツ医・科学サポートを推進します。

現状と課題

- ・ 希望郷いわて国体・希望郷いわて大会を契機として、岩手のスポーツ力が高まっており、世界や全国で活躍する本県出身の選手が多数輩出されていますが、今後も、国際大会等で活躍するトップアスリートを育成するためには、最新の指導技術や戦術等を習得する指導者とともに、スポーツ医・科学的知見を有するアスレティックトレーナー等も含め、アスリートを支えるサポート人材を養成する必要があります。
- ・ 2018平昌パラリンピックに本県ゆかりの選手が多数出場し、本県の障がい者スポーツのレベルは高まっており、障がい者スポーツに本格的に取り組む選手は増えつつありますが、更なる障がい者スポーツ選手の発掘・育成と介助者等を含めた競技活動へのサポートが求められています。
- ・ 県民が日常的にスポーツに取り組み、スポーツを楽しむ機会を提供できるよう、地域のスポーツ活動を担うスポーツ推進委員¹や、スポーツイベントの運営を担うボランティア等の様々なスポーツを支える人材が重要です。

県が取り組む具体的な推進方策（工程表）

① アスリートの競技力の向上

- ・ 世界で活躍する次世代アスリートを輩出するため、県内競技団体、(独法)日本スポーツ振興センター、(公財)日本オリンピック委員会等と連携し、スーパーキッズの発掘・育成など中長期的な視点に立ったジュニア期からの競技力向上を学校との協力により取り組みます。
- ・ 本県トップアスリートのスポーツ活動を支えるため、大会参加や強化合宿等に係る活動の支援に取り組むとともに、アスリートの県内定着を図るため、就職マッチング等を実施します。

② 障がい者アスリートの競技力の向上

- ・ 障がい者スポーツ選手の発掘・育成のため、関係団体と連携し、競技体験会や強化練習会の実施などに取り組みます。
- ・ パラリンピック等の国際大会やジャパンパラ競技大会等で活躍するトップアスリートを輩出するため、大会参加や強化合宿等に係る活動の支援に取り組みます。

③ スポーツ医・科学サポートを通じた競技力の向上

- ・ 本県の競技力向上を効果的かつ効率的に図るため、障がい者を含むアスリートの体力測定等で

¹ スポーツ推進委員：市町村におけるスポーツの推進のため、事業実施に係る連絡調整、住民に対するスポーツの実技指導及びその他スポーツに関する指導・助言を行う者。

得られたデータをもとに、個々に適した科学的なトレーニングメニュー等の提供に取り組みます。

- ・ アスリートのセルフマネジメント能力を高めるため、コンディショニング、スポーツ栄養、スポーツメンタル等のスポーツ医・科学的な知識の提供に取り組みます。

④ スポーツ活動を支える指導者等の養成

- ・ アスリートの競技力向上を担う指導者の資質向上を図るため、関係団体と連携し、全国トップレベルの優秀な指導者による研修の実施や本県トップコーチの中央研修への参加等の支援に取り組みます。
- ・ 障がい者のスポーツ活動を担う指導者の育成のため、関係団体と連携し、専門的知識や実技等を習得する研修の実施などに取り組みます。
- ・ アスリートの育成や活動を支えるアスレティックトレーナー等のサポート人材や、競技団体、総合型地域スポーツクラブ²等の組織運営を担う人材を育成するため、専門的な研修の実施などに取り組みます。
- ・ 地域のスポーツ活動を担うスポーツ推進委員や（公財）日本スポーツ協会公認スポーツ指導者等の資質向上を図るため、関係団体と連携した研修等の実施などに取り組むとともに、地域のスポーツイベントの活性化を図るため、関係団体と連携し、ボランティアの活動を促進します。

県が取り組む具体的な推進方策	工程表（４年間を中心とした取組）																																		
	～2018	2019	2020	2021	2022																														
① アスリートの競技力の向上 目標 ・ 国民体育大会天皇杯順位（位） <table border="1"> <tr> <td>現状値</td> <td>2019</td> <td>2020</td> <td>2021</td> <td>2022</td> </tr> <tr> <td>東北1位</td> <td>東北1位</td> <td>東北1位</td> <td>東北1位</td> <td>東北1位</td> </tr> </table> 現状値は2018年の値 ・ 本県関係選手の日本代表選出数（人）〔累計〕 <table border="1"> <tr> <td>現状値</td> <td>2019</td> <td>2020</td> <td>2021</td> <td>2022</td> </tr> <tr> <td>40</td> <td>28</td> <td>56</td> <td>84</td> <td>112</td> </tr> </table> 現状値は2017年単年の実績値、目標値は2019年からの累計 ・ 本県関係選手の日本代表選出数（人）〔累計〕 <table border="1"> <tr> <td>現状値</td> <td>2019</td> <td>2020</td> <td>2021</td> <td>2022</td> </tr> <tr> <td>40</td> <td>28</td> <td>56</td> <td>84</td> <td>112</td> </tr> </table> 現状値は2017年単年の実績値、目標値は2019年からの累計	現状値	2019	2020	2021	2022	東北1位	東北1位	東北1位	東北1位	東北1位	現状値	2019	2020	2021	2022	40	28	56	84	112	現状値	2019	2020	2021	2022	40	28	56	84	112					
現状値	2019	2020	2021	2022																															
東北1位	東北1位	東北1位	東北1位	東北1位																															
現状値	2019	2020	2021	2022																															
40	28	56	84	112																															
現状値	2019	2020	2021	2022																															
40	28	56	84	112																															
	強化対象選手の指定、競技大会・強化練習等の活動支援																																		
	スーパーキッズの発掘・育成 （発掘プログラム、育成プログラム、適正選択種目の選択）																																		
	アスリートの就職マッチング等の実施																																		
② 障がい者アスリートの競技力の向上 目標 ・ 障がい者アスリートの育成研修会参加選手数（人）〔累計〕 <table border="1"> <tr> <td>現状値</td> <td>2019</td> <td>2020</td> <td>2021</td> <td>2022</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>18</td> <td>38</td> <td>60</td> <td>84</td> </tr> </table> 現状値は2017年単年の実績値、目標値は2019年からの累計 ・ ジャパンパラ競技大会出場選手数（人）〔累計〕 <table border="1"> <tr> <td>現状値</td> <td>2019</td> <td>2020</td> <td>2021</td> <td>2022</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>22</td> <td>30</td> </tr> </table> 現状値は2017年単年の実績値、目標値は2019年からの累計	現状値	2019	2020	2021	2022	14	18	38	60	84	現状値	2019	2020	2021	2022	7	7	14	22	30															
現状値	2019	2020	2021	2022																															
14	18	38	60	84																															
現状値	2019	2020	2021	2022																															
7	7	14	22	30																															
	全体研修会、競技別研修会の実施																																		
	強化対象選手の指定、競技大会・強化練習等の活動支援																																		

² 総合型地域スポーツクラブ：人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子どもから高齢者まで、様々なスポーツを愛好する人々が、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できるという特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。

26 文化芸術・スポーツを生かした地域をつくります

(基本方向)

スポーツを生かした地域活性化を図るため、ラグビーワールドカップ2019TMや東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを継承し、スポーツイベントの誘致・開催をはじめとしたスポーツツーリズム¹の拡充などを通じて、人的・経済的な交流の拡大に取り組みます。

現状と課題

- ・ 東日本大震災津波の発災以降、多くの外国人が岩手を訪れて県民との交流を深め、また、本県から多くの若者が海外に招かれるなど、県民が世界とつながる機会が増加しており、今後もこのつながりを生かした取組が求められています。
- ・ ラグビーワールドカップ2019TM釜石開催や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を間近に控え、スポーツへの関心が高まっていることから、両大会に向けた取組を進めるとともに、大会終了後の人的・文化的交流の発展につながる取組が必要です。
- ・ 本県は、内陸部に山岳丘陵地帯が広がっており、沿岸部は太平洋に面しています。こうした地勢や四季鮮やかな本県の気候のもと、夏はマリンスポーツや登山、冬はウインタースポーツなど様々なレジャーを楽しめる環境を生かしていくことが必要です。

県が取り組む具体的な推進方策（工程表）

スポーツを生かした人的・経済的な交流の推進

- ・ ラグビーワールドカップ2019TMや東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、市町村・関係団体等と連携を強化し、開催準備や公認・事前キャンプの誘致、ホストタウン登録等に取り組むとともに、大会終了後の人的・文化的交流の発展につながるよう、キャンプ・ホストタウンの相手国との交流事業やキャンプの継続に向けた取組を促進します。
- ・ スポーツによる交流人口の拡大を図るため、いわてスポーツコミッション²を中心に様々なスポーツ大会・合宿等の誘致に取り組みます。
特に、ラグビーワールドカップ2019TMの会場である釜石鶴住居復興スタジアムにおいて、これまでの国内外とのつながりや三陸防災復興プロジェクト2019などのレガシーを継承し、スポーツイベントを展開していきます。
- ・ スポーツツーリズムを拡充するため、本県の豊かな自然を生かしたトレイルラン、カヌーなどのスポーツアクティビティの創出・普及を促進します。

¹ スポーツツーリズム：スポーツを目的とした旅行そのものに加え、多目的な旅行者に対する旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、国際競技大会の招致・開催、合宿招致等を包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すもの。

² スポーツコミッション：スポーツ資源と観光資源を生かし、スポーツ大会やスポーツ関連イベント等の誘致、スポーツツーリズムの推進等を官民の関係機関・団体が一体となって取り組み、交流人口の拡大等による地域活性化を図る組織。

- ・ 県内トップ・プロスポーツチームと県民との一体感の醸成による地域活性化を図るため、各チームと連携し、観戦招待やスポーツ教室、イベントの実施などに取り組みます。
- ・ スポーツを生かした経済的な交流の拡大を図るため、産学官連携により、スポーツ関連の製品、技術、サービスなどの共同研究・開発に向けた取組を促進します。

県が取り組む具体的な推進方策	工程表（4年間を中心とした取組）																								
	～2018	2019	2020	2021	2022																				
<p>スポーツを生かした人的・経済的な交流の推進</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ大会・合宿・イベントの参加者数（人）〔累計〕 <table border="1"> <tr> <th>現状値</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> <tr> <td>130,000</td> <td>166,000</td> <td>310,000</td> <td>451,000</td> <td>594,000</td> </tr> </table> <p>現状値は2017年単年の実績値、目標値は2019年からの累計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内トップ・プロスポーツチームによるスポーツ教室等の参加者数（人）〔累計〕 <table border="1"> <tr> <th>現状値</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> <tr> <td>3,771</td> <td>3,830</td> <td>7,690</td> <td>11,580</td> <td>15,500</td> </tr> </table> <p>現状値は2017年単年の実績値、目標値は2019年からの累計</p>	現状値	2019	2020	2021	2022	130,000	166,000	310,000	451,000	594,000	現状値	2019	2020	2021	2022	3,771	3,830	7,690	11,580	15,500	ラグビーワールドカップ2019™ 準備・釜石開催	釜石鶴住居復興スタジアムを活用したスポーツイベントの展開			
	現状値	2019	2020	2021	2022																				
	130,000	166,000	310,000	451,000	594,000																				
	現状値	2019	2020	2021	2022																				
	3,771	3,830	7,690	11,580	15,500																				
		キャンプ誘致、ホストタウン登録、交流事業の促進			交流事業等継続の促進																				
		スポーツ大会、合宿等の誘致 スポーツ施設、宿泊施設、スポーツツーリズム等の情報発信																							
	スポーツアクティビティの創出		スポーツアクティビティの普及																						
	県内トップ・プロスポーツチームとの連携による スポーツイベントの開催																								
	産学官連携の検討、構築		スポーツ関連の製品、技術、サービス等の共同研究、開発の促進																						

1 プロジェクトのねらい

岩手県が誇る世界遺産や多彩な民俗芸能、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の成果や三陸防災復興プロジェクト 2019、ラグビーワールドカップ 2019™ 釜石開催、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を通じた文化芸術・スポーツへの関心の高まりをレガシーとして次の世代につなげていくため、官民一体による推進体制の構築などにより、県内各地の特色や得意分野を生かした魅力ある文化芸術・スポーツのまちづくりを進め、県民が日常的に文化芸術やスポーツに親しみ、楽しみ、そして潤う豊かな社会の実現を目指します。

2 課題と展望

- ア 国は東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーとしてスポーツ人口の拡大を図ることにより、スポーツ産業を国の基幹産業に成長させ、スポーツを核とした地域活性化や新ビジネス創出促進などに取り組むこととしています。
- イ 岩手県では、東日本大震災津波に際し、国内外の著名な芸術家やスポーツ選手など多くの方々からいただいた様々な復興支援により、強い絆や貴重な交流が生まれており、この財産を未来につなげ、より一層発展させていく必要があります。
- ウ 希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の成功に続き、ラグビーワールドカップ 2019™ 釜石開催、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会、三陸防災復興プロジェクト 2019 などを通じて、文化・スポーツへの関心が高まる中、岩手県が誇る世界遺産や民俗芸能などとともに、これらのレガシーを未来につなげていくため、官民一体となった取組が必要です。

3 内容

スポーツの力による健康社会の実現と人的・経済的交流の推進

- (1) 官民一体によるスポーツ推進体制「いわてスポーツ推進プラットフォーム」の構築及び県内各広域圏へのサテライト設置により、スポーツを楽しむ環境の整備やスポーツ医・科学の強みを生かしたアスリート育成、県民の健康増進に向けた取組を推進するとともに、市町村と連携した特色あるスポーツ拠点づくりを推進
- (2) 「いわてスポーツ推進プラットフォーム」にスポーツコミッション機能を備え、スポーツツーリズムによる交流人口の拡大やスポーツビジネスの展開等による地域活性化を推進

4 工程表

取組内容	短期的 (2019～2022)	中期的 (2023～2026)	長期的 (2027～)
スポーツの力による健康社会の実現に向けた取組	官民連携によるスポーツ推進体制設置検討	体制設置	県民誰もがスポーツを楽しめる環境の整備 スポーツ医・科学によるアスリート育成や県民の健康増進の取組
スポーツの力による人的・経済的交流の拡大に向けた取組	事務局の核となる推進組織の強化		特色あるスポーツ拠点づくり スポーツツーリズムによる誘客拡大やスポーツビジネスの展開

5 プロジェクトで目指す姿

(1) スポーツ医・科学に基づく健康プログラムが普及し、県民の健康増進が図られ、健やかで豊かな暮らしが実現しています。

また、スポーツ医・科学のサポートにより、岩手県出身の世界的なトップアスリートの育成・輩出が進み、地域への誇りと愛着が醸成されています。

(2) 国際的な音楽祭の開催や「アーティスト・イン・レジデンス¹」の取組などのほか、アスリートの憧れとなるような大会の開催や、岩手県の自然・資源を生かしたスポーツツーリズムの展開などにより、県内各地の強みを生かした特色のあるスポーツ拠点が形成され、国内外から多くの方々が岩手県を訪れるなど、地域が活気と賑わいにあふれています。

県内各地で文化芸術・スポーツの「特色あるまちづくり」が進展



官民一体による文化芸術推進体制 (岩手版アーツカウンシル)

県北 沿岸 県南
各地へのアートマネージャー派遣による支援

文化プログラムの企画 人材育成
文化芸術活動助成 調査・研究シンクタンク

官民一体によるスポーツ推進体制 (いわてスポーツ推進プラットフォーム)

県北 沿岸 県南
広域圏へ推進体制のサテライトを配置

生涯スポーツ支援 医・科学サポート
スポーツコミッション スポーツビジネス

レガシーを未来へ

本県が誇る世界遺産 多彩な民俗芸能 希望郷いわて国体・大会 RWC2019 釜石開催 東京2020 オリ・パラ 三陸防災復興プロジェクト2019

¹ アーティスト・イン・レジデンス：アーティストの滞在型創作活動、またその活動を支援する制度。